

みなさん、おはようございます。皆さんには事前に全国中学生人権作文コンテストの作文を読んでもらいました。これは福島県の中学生の作文なのですが、どんな事を思いましたか？

私たちは、通常、外見で見える情報でしか物事を考えていないことがほとんどではないでしょうか。私もこの中学生と話す機会があれば、たぶん「普通に見えますね」と言うのではないかと、思いました。でも、その普通に見える裏には、もの凄い努力があったことに、ハッとさせられました。自分の想像力の欠如を思うとともに、こういう作文（文書）を読むことの大切さを感じています。そして、改めて安易に判断してはならないこと、考えることの大切さを痛感しています。

いまは多様性の時代と言われています。人種、年齢、性別、経験、文化、考え方など様々な人が暮らす中で「個人の違い」を認め合うことです。多様性が大切だと言われるのはなぜでしょうか。社会が大きく変化していく中で求められる新しいアイデアや創造性には、異なる視点や経験が融合することが大切なのです。もちろん、多様性の中では、意見の衝突も起きやすくなりますが、それを乗り越えた先に素晴らしいアイデアが生まれやすくなるのです。そして、何より一人一人が幸せに暮らすことができるようになるため、ということです。

皆さんにとって多様性を認め合うとは、例えば海外の高校生と交流するといった特別なことではありません。同じクラスの人や席が近くの人、普段仲のいい人であっても考え方がすべて同じではありません。考え方が違って、そういう考え方もある、と受け入れることです。

休み時間など、いつも仲間と一緒にいることが心地いい、という人ばかりではありません。周りに合わせて行動するよりは、一人で過ごす方が楽だと思える人もいます。それは悪いことではないですね。皆さんは無意識のうちに、周りと同じ意見を言わないといけなくて、違ったことを言うと変に思われる、といった周りに合わせなければならない、という同調圧力というものに支配されていませんか。日本では目立たないこと（周りと同じであること）が良いとされていた時代もありました。しかし、海外では「〇〇さんと同じです」と答えて、自分の考えや意見が言えないことはダメと評価されるのです。

学校は誰にとっても安心して過ごせる場所でなければなりません。障害の有無に係わらず、困りごとには人それぞれに違います。みんなと違うことが前提で多様性を認め合うことができれば、自分の考えや気持ちを安心して表わすことができます。「みんなちがって、みんないい」なのです。

ところで、学校生活の中で誰かの言葉や行動で嫌な気持ちになることがあるかもしれません。いじめは論外ですが、相手が気づいていないのかもしれないし、作文の中学生のように我慢しようとしても出てしまうのかもしれません。いずれにしても、状況を正しく理解せずに陰で悪く言うのではなく、直接伝えることが大切なのではないでしょうか。それが難しい場合や、伝えても改善しない場合は、大人（先生）に相談してください。

一方で、「多様性」を「自分勝手に何をしてもいい」と誤解してはいけません。

- 例えば
- ・掃除は好きじゃないから、教室の掃除をしない
 - ・自分は性格がきついから、思ったことをそのまま伝えた。
 - ・気分がいいので授業中に大きな声でおしゃべりをする
 - ・疲れていたからお年寄りを無視してバスの優先座席に座った

これらの行為は、他人を不快にさせる行為、他人に迷惑をかける行為、ルールやマナーを守らない行為、であり、多様性を認める行為ではありません。

学校の主役は生徒の皆さんです。これからも県宝が多様性を認め合い、誰にとっても居心地のいい学校であるように皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

3年生の皆さん、最後まで頑張り抜いて下さい。

すべての皆さん、健康に気をつけて良いお年をお迎えください。